

(開会の挨拶にかえて) —日本咳嗽研究会10年の歩み—

金沢大学大学院 細胞移植学呼吸器内科 藤村政樹

日本咳嗽研究会は、第一回を1999.10.23に東京経団連会館で開催しましたが、今回、第10回を金沢で開催することになりました。「慢性咳嗽とその原因疾患」に対する考え方は、第一回の頃は参加者それぞれの経験と論文の読み方によってバラバラでしたが、本研究会の討論を通して基本的な土台が出来上がり、本研究会のコンセンサスレポートとして「慢性咳嗽の診断と治療に関する指針」を2001年に発刊し、2005年の日本呼吸器学会「咳嗽に関するガイドライン」発刊に繋がりました。このように本研究会の10年は、日本における慢性咳嗽の原因疾患に関する共通概念の確立にあったと思いますが、まだまだ達成できたとは言えません。現在の診断は「治療的診断」に基づいていますが、誰もが強い印象をもっている「著効症例」に執着してしまうと、治療抵抗性や難治性の症例を見失うこととなります。全世界的に「解剖学的診断」や「治療的診断」が推奨されていますが、他の領域がそうであるように、私たちは「病態学的診断」を、さらには「原因的診断」を目指さなければなりません。節目の第10回を迎えた本研究会は、まさに「最新のレビュー」と「問題点に関するPro and Con」を取り入れ、今後5～10年の発展を期する目的をもって企画されました。「咳の診療」、「咳の研究」に興味ある多数の医療者、研究者の参加をお待ちしています。